

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2010年12月）の予測

発表日：2011年1月31日（月）

～C I一致指数は2ヶ月連続の上昇に～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ C I一致指数は2ヶ月連続の上昇に

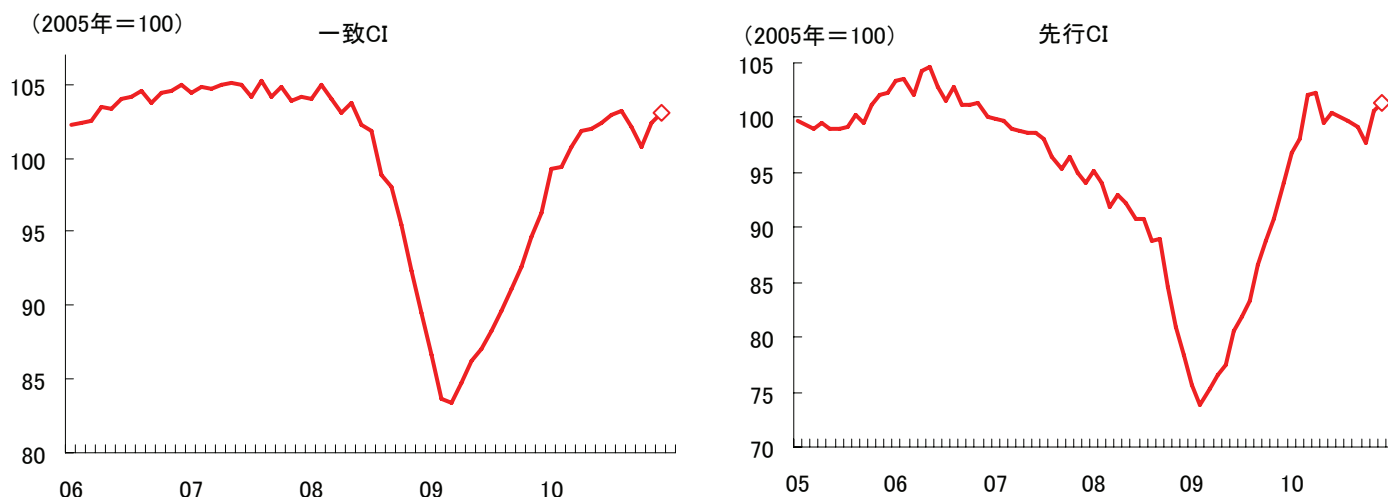
内閣府から2月7日に公表される2010年12月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+0.7ポイントが予想される¹。9、10月には2ヶ月連続で低下し、C I一致指数の基調判断が下方修正されるなど、景気失速懸念も強まっていたが、11月、12月と2ヶ月連続で上昇することで、こうした懸念がかなり和らぐことになるだろう。12月の内訳では、鉱工業生産指数、鉱工業生産財出荷指数など生産関連のプラス寄与が目立つ形になる。

C I一致指数と関連の深い鉱工業生産指数において1月に大幅上昇が見込まれていることも好材料である。1月のC I一致指数の水準も直近のピークである2010年8月の水準を超えるとみられ、昨年秋以降の足踏みが景気後退局面と認定される可能性はかなり小さくなった。

なお、内閣府によるC I一致指数の基調判断は「足踏み」が維持される見込みである。「改善」への上方修正には、3ヶ月移動平均が3ヶ月以上連続して上昇することが必要であるが、3ヶ月移動平均の値は2010年9～11月にかけてマイナスになった後、12月分ですぐにプラスに転じた段階である。原則として、基調判断の上方修正は最短でも2月分の公表時になる²。

○ C I先行指数も上昇見込み

C I先行指数も、前月差+0.8ポイントと2ヶ月連続の上昇が予想される。内訳では、中小企業売上げ見通しD Iのほか、鉱工業生産財在庫率指数や日経商品指数などのプラス寄与が予想される。景気の先行きを見る上で明るい材料と言えるだろう。



（出所）内閣府「景気動向指数」。直近の値は第一生命経済研究所予測値

- 1 所定外労働時間が現時点で未公表（2月1日公表予定）であるため、前月比+2.0%と仮置きして計算した。
- 2 基調判断の基準は満たさないが、但し書きをつける形で2月分の公表を待たずに上方修正する可能性はある。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。